

M39a            **2011年8月9日の巨大フレアに伴うコロナ擾乱現象と、噴出現象について**

福岡 隆敏、浅井 歩、一本 潔、柴田 一成 (京都大学)

本講演では、2011年8月9日に活動領域 NOAA 11263 で発生した X6.9 の巨大フレアに伴うコロナ擾乱現象と噴出物の関連について報告する。このフレアに関しては、京都大学飛騨天文台 SMART(Solar Magnetic Activity Research Telescope) 望遠鏡から得られた H $\alpha$  線太陽全面画像より、フレア領域から南方に、速度約 760km/s で伝播するモートン波が捉えられている。同時に、SDO(Solar Dynamic Observatory) 衛星に搭載の観測装置 AIA(Atmospheric Imaging Assembly) から得られた、極端紫外線 (EUV) 太陽全面画像において、コロナ擾乱現象も詳細に観測されている。それらによると、モートン波と同時に、速い(速度約 700km/s)EUV 波、遅い(速度約 340km/s)EUV 波などが観測されており、フレアに伴うコロナ擾乱現象の理解が大きく進むものと期待される。私たちは、上記のデータをさらに詳しく見ることで、これらのコロナ擾乱を引き起こしたと思われる速度約 450km/s の噴出現象を発見した。これ以前にも速度 100-200km/s の噴出現象が数回確認されているが、これらはコロナ擾乱を引き起こしていない。これらの結果から、コロナ擾乱現象が発生するためには、十分な速度の噴出が必要であることが示唆される。本講演ではまた、このフレアや噴出現象を引き起こした活動領域 NOAA 11263 の成長過程についても報告する。